

新国立競技場の計画の経緯

イメージ図は日本スポーツ振興センター提供

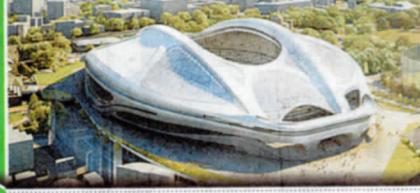
- 開閉式屋根の設置は五輪・パラリンピック後に先送り
- 可動席を仮設にし、空調設備も一部見直し

目標工事費は2520億円



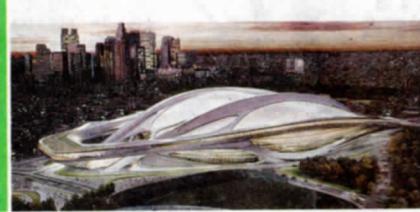
- 規模の縮小(約29万平方メートル→約22万平方メートル)
- 周辺に配慮し高さを5メートル低くして70メートルに

総工費は1625億円の予定がその後の試算で3千億円超に



- スポーツの躍動感を思わせる流線形
- 日本の優れた建築技術をアピールできるとして選出

総工費1300億円を目安に公募したが試算すると約3千億円に



有識者として会議に出席
した東京都の舛添要一知事
も計画を容認したが、都の
費用負担については明言し

なかつた。8日に遠藤利明
五輪担当相と会い、費用負
担について協議する。JS
Cは一両日中にも大手ゼネ

コンと契約を結び、今年10
月に着工、19年5月の完成
を予定している。

アーチ2本で建物を支え
る特殊なデザインを採用し
たのは、この日の有識者会
議を欠席した建築家の安藤
忠雄氏を委員長とする審査
委員会だった。12年11月、
イラク出身の建築家ザハ・
ハディド氏(64)の案を「象
徴的なアーチ状構造の実現
は、現代日本の建築技術で
しか造り得ない挑戦だ」

2020年東京五輪・パラリンピックの主会場になる新国立競技場(東京都新宿区)について、事業主体の日本スポーツ振興センター(JSC)は7日、総工費2520億円の建設設計で工事を進めることを決めた。東京都内で開いた有識者会議(座長・佐藤禎一元文部事務次官)で計画を報告し、了承された。

▼2面=あつさり了承、14面=社説

増加765億円分 アーチ構造など原因

新国立工費2520億円了承

有識者会議

実施設計段階(2015年7月)

基本設計段階(2014年5月)

国際コンペで選ばれたザハ(11月)

ハディド氏のデザイン

3面=瀬戸際の交渉、11

ギリシャ、債務減免要求へ

3面=瀬戸際の交渉、11

独首相、なお慎重

3面=瀬戸際の交渉、11

3面=瀬戸際の交